



淡路医療センター



尼崎総合医療センター



2023（令和5）年

兵庫県立病院薬剤部

20

第 刊

教育研修委員会だより

編集発行：兵庫県立病院薬剤部長会議教育研修委員会



こども病院



がんセンター



はりま姫路総合医療センター

令和4年度全体研修

Contents

Introduction	担当部長からのメッセージ	1
	令和4年度教育研修委員会の取り組み	1
Topics	精神科病院における感染対策	2
Messages	資格取得者からのメッセージ	3
	レジデントの声	4
Activities	令和4年度 県立病院薬剤師研修報告	5
	令和4年度 県立病院相互利用	9
	書籍出版・学会発表	10
Specialist	専門・認定薬剤師等の取得状況	13

担当部長からのメッセージ

コロナ禍の出口が見えない中、教育研修委員会では、今年度も全体研修、階層別研修、専門教育研修、相互利用研修を確実に実施することができました。特に階層別研修は、感染対策を徹底し3年ぶりに集合研修の実施に漕ぎ着けました。各病院からの参加者が一つの会場に集合して行った研修では実際に医療機器を操作するなど、マスク越しであってもオンライン研修では得られない多くの経験と知識を涵養できたのではないのでしょうか。

教育研修委員会では今後も多様化する医療ニーズに対応できる薬剤師を育成するために、チーム医療に貢献できる知識と技能を効率的、持続的に習得できる研修を適切に企画・運営していきます。

兵庫県立病院薬剤部長会議 教育研修委員会

担当部長 丹波医療センター 薬剤部長 横田 聖子
淡路医療センター 薬剤部長 石田 達彦

令和4年度教育研修委員会の取り組み

1 県立病院薬剤師の教育育成に関する指針に基づく研修の実施

全職員を対象とした「総合型薬剤師育成ラダーを用いたCPDに沿った生涯研修」について進捗状況を確認した。

2 県立病院薬剤師研修の企画・運営

(1) 令和4年度第1回県立病院薬剤師研修（全体研修）

令和4年6月4日（土）開催（オンライン）同研修の企画・運営

(2) 令和4年度第2回県立病院薬剤師研修（階層別研修：職員1～4年目）

令和4年11月12日（土）開催（集合）同研修会の企画・運営

(3) 薬剤師専門教育研修（がん・緩和領域）

令和4年11月4日（金）西宮病院にて開催（オンライン）同研修会の企画・運営

(4) 薬剤師専門教育研修（感染制御領域）

令和4年11月8日（火）加古川医療センターにて開催（オンライン）同研修会の企画・運営

(5) 令和5年度第1回県立病院薬剤師研修（全体研修）

令和5年6月3日（土）開催予定 同研修会の内容等について企画

3 県立病院の相互利用の活性化

- ・各病院の設備、業務内容及び特徴的な取り組みなどを「相互利用のための各県立病院情報」として更新し、県立病院薬剤部ホームページ（会員用）で情報共有した後、相互利用による研修を行った。
- ・尼崎総合医療センターで救急・集中治療領域について、病棟薬剤業務の相互利用合同研修を実施した。

4 「県立病院薬剤師の教育育成に関する指針」の改訂

他医療機関での実務経験のある新規採用職員に対応するため、「県立病院薬剤師の教育育成に関する指針」を改訂した。

5 教育研修委員会だよりの発行

トピックスとして、「精神科病院における感染対策」を掲載し、第20刊を発行した。

ひょうごこころの医療センター 南野 希

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行に伴い、精神科医療の基幹病院である当センターは病院機能を維持するために体制を整備し、県の方針のもと精神疾患のある軽症や疑いのある COVID-19 患者の入院病床を早期に確保しました（6床→現在8床）。

精神疾患を有する患者では、マスク着用や手指衛生、身体的距離の確保といった COVID-19 感染予防対策を十分に行うことが困難であるとともに、ホールでの食事や作業療法といった人が集まる環境があり、感染拡大リスクは高いと考えられます。

院内では、COVID-19 対策会議を週1回及び必要時に開催し、精神科の状況に合わせた院内規則、研修・実習受入規則の整備、外出泊の審議を行っています。実働部隊として ICT では、院内 web 研修、環境ラウンドを行い、直接患者へのマスク着用なども促しています。



薬剤部では上記への参画とともに、COVID-19 対応として治療薬の導入体制整備、医師・看護師等への情報提供と相談応需、当該患者の薬剤使用と副作用等のカルテ確認を行っています。

当センターでは「精神科では特に感染予防の注意が必要である」という認識を誰もが持ち早期より対策を実施したことでクラスターの発生は防げています。薬剤部においても業務が中断しないよう、引き続き手指消毒、患者対面時のマスク・アイシールドの着用、出勤前の体温・体調確認、黙食の徹底を図り、常にウイルスを「持ち込まない」「拡げない」対策を講じておくことが重要と考えています。



資格取得者からのメッセージ

～痛み、ちゃんととれてますか！？～

日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師 高橋 知孝 (がんセンター)

緩和薬物療法認定薬剤師の申請資格について

緩和薬物治療における薬剤師の積極的な関わりが期待されている中で、専門的な知識を修得した薬剤師の育成を目的として、日本緩和医療薬学会が「緩和薬物療法認定薬剤師」を認定しています。認定申請は、書類審査として、①薬剤師実務経験5年以上、②学会の規定する認定薬剤師資格を有する事、③申請時に引き続いて3年間以上緩和ケアに従事している事、④所定の研修受講、⑤緩和ケアに関する学会発表、⑥緩和医療領域薬剤管理指導の実績30症例となっています。書類審査に合格した場合に、認定試験を受験できます。

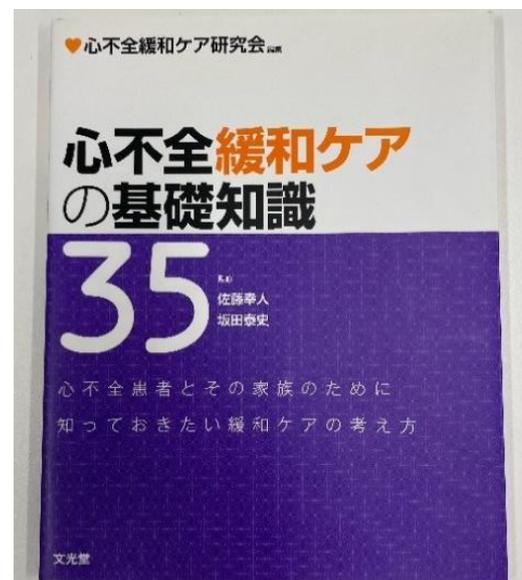
緩和薬物療法認定薬剤師を目指したきっかけ

新人の頃に担当した消化器外科病棟では、痛みを訴える患者さんが非常に多く、医師にオピオイドの投与提案をよく行っていました。投与が始まるとすぐに痛みが改善し、患者・医療者双方から感謝された事から、緩和ケアに興味を持ち、勉強を始めました。



資格を取得してからの活動について

最初の転勤で、緩和ケア病棟のある加古川医療センターで、緩和ケアチームの担当として、チームの立上げに携わりました。認定を取得後、姫路循環器病センターへ転勤となり、そこで新たに心不全の緩和ケアという全く新しい取り組みを始める事になりました。全国的にも珍しい試みであり、各種講演会での登壇や関連書籍への執筆等貴重な経験をさせていただきました。その後、がんセンターへ転勤となり、がん治療早期からの緩和ケア導入として、院内マニュアルの整備や緩和ケア研修会の運営を行っています。緩和ケアは、専門医の少ない分野でありながら、薬物療法が中心のため、薬剤師が関わりやすい領域と言えます。あなたも、痛みを訴える患者さんが安心して相談できる薬剤師を目指してみませんか？



レジデントの声

薬剤部レジデント研修における病棟業務について

尼崎総合医療センター レジデント岩本 瑞生（2年目）

兵庫県立尼崎総合医療センター薬剤師レジデント 2年目の岩本瑞生です。

今回私は、病棟薬剤業務について紹介いたします。当院は病床数 730 床、救急を含めた 48 科目の診療科を持つ超急性期病院です。レジデントは入職 3 ヶ月目から複数の病棟を順に担当します。私は 1 年目に脳神経内科・外科、耳鼻咽喉科、形成外科、歯科口腔外科、小児科を経験しました。複数の病棟を経験し、より深く小児患者やその家族との関わりについて学びたいと思い、2 年目からは小児科病棟で研修しています。



小児科では小児特有の疾患や薬剤の投与量・投与方法など学ぶことは多いですが、小児の認定資格を取得された薬剤師の先生方の指導のもと、最新の治療についての知識を得るよ



う努めています。服薬指導では薬剤に関することはもちろん、患児やその家族から内服方法についての相談をよく受けます。同じ年齢であっても性別や性格等の個人差があり、患児にあった薬剤選択は容易ではありませんが、実際に患児や家族からうまく内服できたとの声をきくとやりがいを感じます。患者や他職種との関わりの中でまだまだ未熟さを痛感することが多いですが、日々自分が調べたことや学んだことを処方提案や服薬指導の場面に活かし、これからも安全・安心な薬物療法を提供できるよう努力していきたいと思っています。

受入実績

(令和4年9月現在)

令和4年度受入人数：14名（1年目10名、2年目4名）

令和3年度レジデントのうち兵庫県職員合格者：2名

レジデント受入年次推移 平成30年度：18名 令和元年度：19名 令和2年度：19名
令和3年度：12名

全体研修（全職員対象）

令和4年6月4日 Web研修 参加183名

病院局経営課／副課長 瀧口 直彦

1. 県立病院事業の経営状況

兵庫県の財政状況は、震災の影響が未だ色濃く、行財政健全化を目指した2008年度策定「新行革プラン」に基づく改革に取り組むも、大きな改善には至っていない。その最中、県立病院の整備計画は着実に進んでおり、圏域への高度専門医療の提供のみならず、これに見合った収益の確保が期待される。薬剤師が関わる経営への貢献としては、後発医薬品の採用拡大、薬剤管理指導など従来業務に加え、クリニカルパスによる安全かつ効率的な入院治療あるいは在院日数の適正化に寄与する入退院支援機能の充実に、専門的な立場から関わることでありと実感した。

（はりま姫路総合医療センター 佐伯 剛史 記）



2. 令和4年度診療報酬改定ポイント解説～病院薬剤師に関連する内容を中心に～

株式会社スズケン卸事業企画部 コンサルティング課 医業経営コンサルタント／岡山 幸司



本講義では、令和4年度診療報酬改定に伴い病院薬剤師として理解すべき内容について説明があった。今回の改定では、「感染症対策」「地域包括ケア」「働き方改革」「ICT」の4つの視点で改定が進められた。その背景には、コロナ禍で初めて行われる改定であり、新型コロナウイルスの感染拡大で露呈したデジタル化の遅れ、地域連携の未成熟、超高齢社会を受けての働き方改革を早急に進める必要があるという課題がある。病院薬剤師が関わる主な改定箇所は、褥瘡対策や病棟薬剤業務実施加算算定可能な入院料の見直し、外来感染対策向上加算、術後疼痛管理チーム加算、周術期薬剤管理加算、退院時薬剤情報管理指導連携加算、外来腫瘍化学療法診療料の新設など多岐にわたる。これからの病院薬剤師は、病棟業務での服薬指導を充実させ、他職種とのコミュニケーションを積極的に図り、また保険薬局との連携の強化が期待されている。本研修で学んだ事を今後の業務に活かすことができるよう努めたい。

（はりま姫路総合医療センター 山本 柚佳 記）

3. 腎機能低下患者における薬物療法の考え方

日本腎臓病薬物療法学会監事・I&H株式会社学術研修部／平田 純生

本講義では、腎機能低下患者におけるRAS阻害薬・SGLT2阻害薬をはじめとする幅広い薬剤の適切な使用方法についての説明があった。

腎機能低下患者に対する血圧管理において過度な降圧は腎機能を悪化させる恐れがあるため、原疾患・GFR区分・蛋白尿区分に応じて降圧目標や治療薬を選定することが重要である。その中でも薬物療法においてRAS阻害薬・NSAIDs・利尿薬の併用は腎機能を悪化させるリスクとなるため注意が必要である。

血糖管理において、SGLT2阻害薬の使用はCKDの進行を抑制しAKIの予防効果があり、RAS阻害薬との併用により腎保護作用が増強するとされている。また現在の医療現場において、臨床的な惰性により治療目標が達成されず、患者の症状が悪化することが問題となっている。そのため、服薬指導では副作用対策や血圧・血糖値の治療目標を明確に伝えることで治療を適切に強化することが重要だと学んだ。本講義で学んだ知識を活かして、より適切に薬物療法に携わることができるように努めたい。



(はりま姫路総合医療センター 奥平 仁美 記)

階層別研修（1～4年目職員対象）

令和4年11月12日 兵庫県学校厚生会館
参加 72名

医療機器・医療器材の知識

テルモ株式会社 神戸支店／篠田 貴史、吉田 達郎

研修前半は静脈注射で使用する医療器材の種類とその特徴に関する講義の後、器材を使った実習が行われた。静脈注射時は薬剤のチューブ素材への影響やフィルター使用時の透過性を考慮する必要があることや、輸液ポンプ・シリンジポンプ使用時の警報発報時に適切な対応を行わないと、投与予定と異なる薬剤量

が投与される危険性があることなど、実際に点滴セットやシリンジポンプなどを使って学んだ。

研修後半では抗がん剤曝露対策について、器材を用いながらの講義が行われた。調製時には閉鎖式薬剤移送システム(CSTD)を使用するなど曝露対策が行われているが、調製時以外にも運搬や投与、廃棄時で曝露の危険性がある。作業の対象者を明確にした職業性曝露対策ガイドラインが策定されており、抗がん剤曝露の危険性と曝露対策について、意識を高めることができるプログラムだった。



(淡路医療センター 久世 翔一郎 記)

薬剤部長会議について／各委員会の活動について

薬剤部長会議副会長／上田 里恵
教育研修委員会担当部長／横田 聖子、石田 達彦

薬剤部長会議では薬剤師業務の質・量的な向上のための取り組み、経営への貢献、医薬品安全管理の体制整備、優秀な人材の確保、資格取得への支援、各委員会での検討事項の最終決定等を行っている。

業務標準化委員会は共通マニュアル作成や病院間で情報共有を円滑に行うための環境整備、病棟業務手順書の作成・活用推進等により、県立病院全体の質の向上・効率化に取り組んでいる。

教育研修委員会は教育育成指針に基づいた研修を企画・実施し、高度・専門医療に対応し、チーム医療により病院に貢献できる薬剤師の育成に取り組んでいる。

リスク管理委員会はヒヤリ・ハット事例の情報共有、分析、対策を行い、医療安全対策を強化している。



(丹波医療センター 梅谷 祥弘 記)

添付文書を読むための医療統計学

立命館大学 生命科学部 生命医科学科 医療政策・管理学研究室／准教授 森脇 健介

本講義では、科学的根拠に基づく医療を行うために必要な統計学の基礎や臨床上の疑問に関して最適なエビデンスを吟味し、患者の価値観や意向を考慮した治療方法を選択するための考え方を身につけることができた。

臨床試験では、対象とする母集団の抽出や目標に応じたデータの種類の選択、ばらつき・バイアスの最小化を図るためのデザインが重要であることを学んだ。



特に治療方法と結果の因果関係を評価する際、交絡によりその有効性や安全性を見誤る可能性がある。したがって、デザイン段階におけるランダム割付や解析方法の工夫によって交絡因子の影響を少なくする手法が施されていることを理解できた。

薬剤師は、公正中立な根拠に基づいた医薬品情報を医師に提供することで、薬物治療の質や経済性を向上させる情報提供者 (Detailer) となって貢献できるように、臨床試験・費用効果分析を読み解く知識・技術を身につける必要がある。

(こども病院 岡田 瑞希 記)

感染制御領域

令和4年11月8日 Web研修 参加9名

本研修では、①医師による講義「感染症診療の基本」、②検査技師による講義「細菌検査について」、③薬剤師による講義「抗菌薬適正使用チームの介入から学ぶ症例」、「感染制御領域における資格取得に必要な知識と認定制度」が実施された。

①では、感染を疑った際に確認するべき項目や、そのときの患者の状態を確認し適切に薬物選択を行うことの大切さ、感染以外の様々な疾患についても考慮する必要があることなどを学んだ。

②では、グラム染色が初期治療、治療効果判定に有用であることや代表的な細菌の画像所見、細菌学的ブレイクポイント(CLSI)について学んだ。

③では、実際の症例で検査値や所見から疾患を鑑別し、感染部位、起炎菌を想定した適正な抗菌薬の選択とその後の必要な検査などをフォローすることが重要であることを学んだ。また、資格取得のための必要事項や流れ、症例記載時の注意点等について具体的に知ることができた。



(加古川医療センター 後藤 千尋 記)



がん・緩和領域

令和4年11月4日 Web研修 参加9名

本研修では、ZOOMを使用したオンライン研修で、胃がんの治療について、①医師による講義（胃がんの最新治療）、②薬剤師による講義・症例検討（がん化学療法における薬物管理指導と副作用対策について、がん患者の症状緩和を目的とした薬物療法について）が実施された。

①では、胃がん化学療法の歴史や進歩から胃癌治療ガイドラインの変更点について幅広く学び、最新の知識を得ることができた。

②では、抗がん剤の分類やその副作用と対策といったがん化学療法の基礎的な内容の講義があった。症例検討では、ニボルマブ+SOX療法を例に検査項目や投与量について、オンライン上でグループディスカッションを行い発表することで、実践的な学習ができた。症状緩和については、疼痛評価や患者に適した剤形の選択、せん妄の予防薬や発症後のマネジメントについて、実際の症例を用いて学ぶことができた。

また、資格取得に向けた症例報告作成時の注意点などについても解説があり、意識を高めることができた。

(西宮病院 藤原 未都菜 記)



県立10病院における新規業務、システム、特徴的な取り組み(チーム医療、病院独自の取り組み等)を病院間で情報共有することにより、人的・物的資源の有効活用を図ると共に、県立病院全体の業務の質向上を図る取り組みを行いました。

緩和ケアチームラウンド		集中治療室での業務		抗菌薬適正使用チーム (AST)	
実施日	8月3日	実施日	8月4日、16日、19日	実施日	8月24日
実施施設	尼崎総合医療センター	実施施設	尼崎総合医療センター	実施施設	尼崎総合医療センター
参加人数	1名(こども)	参加人数	4名(加古川・はり姫・丹波・こども)	参加人数	1名(淡路)
褥瘡回診		NSTラウンド・カンファレンス		認知症・せん妄ラウンド	
実施日	8月24日	実施日	8月26日	実施日	8月30日
実施施設	尼崎総合医療センター	実施施設	尼崎総合医療センター	実施施設	尼崎総合医療センター
参加人数	1名(こころ)	参加人数	1名(淡路)	参加人数	3名(西宮・加古川・淡路)
外来抗がん剤鑑査業務		病棟薬剤業務(救急・集中治療領域)		外来化学療法患者への服薬指導	
実施日	11月11日	実施日	10月18日、12月6日	実施日	8月23日
実施施設	尼崎総合医療センター	実施施設	尼崎総合医療センター	実施施設	西宮病院
参加人数	1名(がん)	参加人数	2名(はり姫・淡路)	参加人数	1名(丹波)
骨粗鬆症リエゾンサービス		救命救急センターへの薬剤師の常駐		緩和ケアチームラウンドへの参加	
実施日	9月1日	実施日	10月28日	実施日	11月16日
実施施設	西宮病院	実施施設	加古川医療センター	実施施設	加古川医療センター
参加人数	1名(加古川)	参加人数	1名(丹波)	参加人数	1名(はり姫)
薬剤師によるB型肝炎ウイルススクリーニング		病棟薬剤業務(精神疾患領域)		抗がん剤調製業務	
実施日	12月2日	実施日	11月29日	実施日	11月15日
実施施設	丹波医療センター	実施施設	ひょうごこころの医療センター	実施施設	がんセンター
参加人数	1名(がん)	参加人数	1名(丹波)	参加人数	1名(はり姫)
外来化学療法患者への服薬指導、外来麻薬指導		緩和ケアチーム		レジメン管理業務	
実施日	11月18日	実施日	11月22日、12月13日	実施日	11月28日、30日
実施施設	がんセンター	実施施設	がんセンター	実施施設	がんセンター
参加人数	1名(西宮)	参加人数	4名(加古川・丹波・淡路・粒子線)	参加人数	2名(加古川・淡路)

病院名： 尼崎・・・尼崎総合医療センター
 はり姫・・・はりま姫路総合医療センター
 こころ・・・ひょうごこころの医療センター
 粒子線・・・粒子線医療センター

西宮・・・西宮病院
 丹波・・・丹波医療センター
 こども・・・こども病院

加古川・・・加古川医療センター
 淡路・・・淡路医療センター
 がん・・・がんセンター

書籍出版・学会発表

期間：令和3年12月～令和4年11月

論文発表

期間：令和3年12月～令和4年11月

- ◆ 日本小児臨床薬理学会雑誌 第35巻 第1号
 - ・小児集中治療室におけるバンコマイシン初期投与量の適正化の取り組み
(こども) 磯元 啓吾
- ◆ くすりと糖尿病 第10巻第2号(通巻第19号) 2021年12月20日発行 P209-217
Japanese Journal of Pharmaceutical and Diabetes, 10(2), 209-217(2021)
 - ・2型糖尿病患者におけるカルシウム、リン及びマグネシウム動態に及ぼすSGLT2阻害薬の影響
(がん) 六車龍介

書籍等出版物

期間：令和3年12月～令和4年11月

※メーカー作成の出版物(パンフレット、小冊子)を除く

- ◆ じほう 副作用のみかた・考え方2
 - ・Case2 この「水疱」はアモキシシリンによる重症薬疹ですか?
(尼崎) 西海 一生

学会発表

期間：令和4年度発表分(発表予定を含む)

- ◆ 第15回日本緩和医療薬学会年会
(令和4年5月14日～15日)
 - ・当院におけるアナモレリンの使用実態調査
(尼崎) 前田 和輝
 - ・タペンタドール(600mg/日以上)投与症例の検討
(がん) 國東 佑美
- ◆ 第9回日本糖尿病協会年次学術集会
(令和4年7月23日～24日)
 - ・糖尿病療養指導士兵庫県連合会活動報告
(がん) 六車 龍介
- ◆ 第32回日本医療薬学会年会
(令和4年9月23日～25日)
 - ・シンポジウム 33 Complex case カンファレンス 複雑な症例をプロフェッショナルな薬剤師と一緒に考えよう
(尼崎) 西海 一生
 - ・FLS(骨粗鬆症リエゾン)パス介入による骨粗鬆症治療薬開始状況調査
(加古川) 後藤 千尋
 - ・新生児集中治療室における薬剤師の関わり
(こども) 門倉 史枝

- ◆ 第 69 回日本化学療法学会東日本支部総会
 第 71 回日本感染症学会東日本地方会学術集会
 合同学会開
 (令和 4 年 10 月 26 日~28 日)

 - ・ がん専門病院における Antimicrobial Stewardship Team の役割と抗菌薬使用量について
 (がん) 大原 沙織
- ◆ 第 16 回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会
 (令和 4 年 10 月 29 日~30 日)

 - ・ 腎機能低下による投与量調節に係る検査値処方鑑査システムの導入及び活用について
 (丹波) 中山 奈美
 - ・ 調剤時における腎機能別薬剤投与量評価システム導入後の効果について
 (淡路) 田中 将太
- ◆ 第 92 回日本感染症学会西日本地方会学術集会
 第 65 回日本感染症学会中日本地方会学術集会
 第 70 回日本化学療法学会西日本支部総会
 (令和 4 年 11 月 3 日~5 日)

 - ・ 重症 COVID-19 感染者の二次細菌感染と de-escalation
 (加古川) 田中 拓可
- ◆ BPCNP4 学会合同年会
 (令和 4 年 11 月 4 日~6 日)

 - ・ アルコール依存症患者における抗酒剤への意識調査~薬剤師の役割を考察する~
 (こころ) 南野 希
- ◆ 第 49 回日本小児臨床薬理学会学術集会
 (令和 4 年 11 月 4 日~5 日)

 - ・ ω3 系脂肪酸製剤(Omegaven®)の分注後安定性の検討について
 (尼崎) 本上 ほなみ
- ◆ 近畿薬剤師合同学術大会 2023
 (令和 5 年 2 月 4 日~5 日)

 - ・ 兵庫県立尼崎総合医療センターの COVID-19 における呼吸苦の症状緩和に対するモルヒネ塩酸塩注の使用調査
 (尼崎) 山口 淳美
 - ・ 尼崎総合医療センターの腎機能低下患者に対する適切な薬物治療のための取り組み
 (尼崎) 外口 智紗子
- ・ ビタミン K2 製剤投与 3 ヶ月法導入に伴う兵庫県立尼崎総合医療センター薬剤部の取り組み
 (尼崎) 尊田 有香子
 - ・ 当院の S-1 導入患者に対する涙道障害防止を目的とした眼科対診依頼の取り組み
 (尼崎) 寺本 日路美
 - ・ 腎機能に関する注意喚起表示の取組みと投与量適正化への貢献について
 (西宮) 込山 明佳
 - ・ 当院における 2 型糖尿病患者に対するセマグルチドの使用状況について
 (西宮) 高田 奈央子
 - ・ 当院における ESBL の発生状況と AST の介入について
 (西宮) 丸本 一希
 - ・ 院外処方箋における疑義照会プロトコルの統一化
 (加古川) 金安 真由子
 - ・ 脆弱性骨折の患者を対象とした薬物治療におけるフローチャートの作成
 (加古川) 宮崎 早可
 - ・ 当院におけるパキロビッド®パックの運用と薬剤師の関わり
 (加古川) 増田 悠香
 - ・ 当院における腎機能低値チェックシステムの構築と有用性に関する検討
 (加古川) 村田 和歌子
 - ・ タゾバクタム・ピペラシリン配合剤とバンコマイシンの併用による急性腎機能障害の発生状況調査
 (加古川) 中村 亮博
 - ・ 調剤自動化機器導入前後におけるエラー事例分析について
 (はり姫) 山本 柚佳
 - ・ 適正使用推進に向けた医療連携の推進について
 (はり姫) 寺崎 展幸
 - ・ 処方箋への臨床検査値等の表記導入による医薬品適正使用への取り組み
 (はり姫) 落合 惇也
 - ・ 小児の退院時薬剤情報管理指導連携加算を算定した症例
 (丹波) 上月 萌

- ・兵庫県立丹波医療センターにおける外来化学療法患者への服薬指導の現状

(丹波) 飯田 晴香

- ・薬剤総合評価調整加算の算定を行った活動報告

(丹波) 今井 瑞稀

- ・当院における ARNI の使用実態調査

(丹波) 福田 真依

- ・当院のアナモレリン錠処方患者の実態調査

(淡路) 川口 文

- ・ダパグリフロジン新規開始患者における脱水について

(淡路) 久世 翔一郎

- ・当院における血液腫瘍内科患児のバクタミニニ配合錠の使用実態調査

(こども) 芦原 まいか

- ・小児集中治療室における薬剤師の取り組みについて

(こども) 網代 千慧

- ・粉碎調剤における調剤方法の主薬含有量に与える影響について

(こども) 岡田 瑞希

- ・当院における抗菌薬の使用状況と耐性に関する国際調査(G-PPS)への参加ー国内外の比較から見える現状と課題についてー

(こども) 陣田 剛志

- ・当院におけるダラツムマブ皮下注製剤の副作用発現状況調査

(がん) 武川 徹也

- ・婦人科領域の放射線併用化学療法における悪心・嘔吐に対する制吐剤の検討

(がん) 唐木 麻衣

- ・アナモレリン塩酸塩錠服用中の高血糖発現状況の調査

(がん) ※堀田 拓海

◆日本臨床腫瘍薬学会学術大会

(令和5年3月4日~5日)

- ・外来がん化学療法実施患者における CINV に対するオランザピンの使用状況

(淡路) 波部 未央佳

- ・がんセンターにおけるがん患者指導管理料ハの算定に対する取り組み

(がん) 山内 紗綾香

- ・ページニオ服用患者における外来指導の取り組み

(がん) 赤松 祐季

◆第12回日本薬剤師レジデントフォーラム

(令和5年3月5日)

- ・バクタミニニ®配合錠の使用内服調査(仮)

(尼崎) ※岩本 瑞生

- ・当院における重度の腎機能障害患者に対するエンレスト®錠の使用実態調査(仮)

(尼崎) ※山本 奈緒

- ・糖尿病教室でのクイズ導入による理解度向上のための取り組み

(加古川) ※村上 加奈

※ …レジデント

専門・認定薬剤師等の取得状況

(令和 5年 1月 現在)

名称・認定団体等		尼崎総合医療センター	西宮病院	加古川医療センター	はりま姫路総合医療センター	丹波医療センター	淡路医療センター	ひょうごこころの医療センター	こども病院	がんセンター	粒子線医療センター	合計
がん薬物療法専門薬剤師	日本病院薬剤師会								1			1
がん薬物療法認定薬剤師	日本病院薬剤師会								1	1		2
感染制御専門薬剤師	日本病院薬剤師会				1							1
感染制御認定薬剤師	日本病院薬剤師会				1	1	1		1			4
日本糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士認定機構	1		1	2	2				3		9
栄養サポートチーム専門療法士	日本臨床栄養代謝学会	5	4	2	3	1	2		1	3		21
緩和医療暫定指導薬剤師	日本緩和医療薬学会	1										1
緩和薬物療法認定薬剤師	日本緩和医療薬学会	1						1		2		4
医療薬学専門薬剤師	日本医療薬学会		1		1				2			4
日病薬病院薬学認定薬剤師	日本病院薬剤師会	20	5	5	10	7	7	2	3	9	1	69
研修認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	1	1	2	3					3		10
認定実務実習指導薬剤師	日本薬剤師研修センター	10	4	5	8	3	5	1	4	10		50
日病薬認定指導薬剤師	日本病院薬剤師会			1				1	1			3
小児薬物療法認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	3				1			3			7
漢方薬・生薬認定薬剤師	日本薬剤師研修センター									1		1
救急認定薬剤師	日本臨床救急医学会	2	1	1			1					5
抗菌化学療法認定薬剤師	日本化学療法学会	3		1	5				3	3		15
日本 DMAT 隊員	厚生労働省医政局長	2		1	2		1			1		7
スポーツファーマシスト	日本アンチドーピング機構	1	1			1						3
外来がん治療専門薬剤師	日本臨床腫瘍薬学会		1			1	1			1		4
外来がん治療認定薬剤師	日本臨床腫瘍薬学会	2	2	1								5
糖尿病薬物療法認定薬剤師	日本くすりと糖尿病学会									1		1
骨粗鬆症マネージャー	日本骨粗鬆症学会	1					1		1			3
NST 専門療法士実地修練	日本臨床栄養代謝学会認定教育施設	7	5	4	3	3	4	2	1			29
禁煙指導認定薬剤師	兵庫県薬剤師会	2										2
周術期管理チーム認定薬剤師	日本麻酔科学会	2	2									4
術後疼痛管理研修	日本麻酔科学会									1		1
肝炎医療コーディネーター	肝炎情報センター	6										6
合計		70	27	24	39	20	23	7	22	39	1	272

令和4年度教育研修委員会

編集後記

約3年ぶりに、感染予防対策を講じた上で階層別研修を現地開催し、無事に終了することができました。マスク越しではありましたが顔を合わせてコミュニケーションをとり、実践に触れ、充実した研修となったのではないのでしょうか。また、これまでは模索しながら行っていたオンライン研修も、昨年度に作成した「オンライン研修会開催のための手引き」に基づいて実施したことでより円滑な準備、より効果的な研修会ができたのではないかと思います。COVID-19の状況が変化しても柔軟に取り組むことで、職員の資質向上に貢献していきたいと思います。



担当部長	横田聖子	石田達彦
委員長	柴田直子	
副委員長	河原香織	
委員	奥貞佳世子	丸本一希
	田中拓可	佐武絢子
	研真梨子	南野希
	山内紗綾香	香田小百合